【市長と語る懇談会　記録】

開催日　平成 25 年 5 月 19 日（日）
地区/会場　大湊小学校区/
大湊地区コミュニティセンター
参加者数　23 人
後日回答となった質問　1 件

《質問・意見》

三重県下で市民病院の給料が安いとか医師を集めるのに苦労しているとか聞いたが、学生が伊勢市に来たくなるような、どこにもない医療関係の設備を作った方がいい。順番が逆のように思う。これが第一点。

それから、おもてなし観光。外宮周辺、内宮周辺で人と会うのに喫茶店を探したがない。オープンカフェでもあったらと思う。観光客に来てもらっても、お年寄りも多いと思うけど、外宮周辺で座れる場所がない。個人の店でご飯でも食べるなら、お金を出してその店に座らせてもらえるけど。無料のオープンカフェがない。

若い者ならコンビニに行って 100 円 200 円でジュースでも買えるが、お年寄りには多分無理です。これもおもてなしだと思う。

それと、教育の問題。今、少子化の影響で大湊小学校と神社小学校の合併問題が出ているが、メール社会で子どもに心がない。電話なら「今日は用事があっていかんのや」「なんでいかんのや」って話ができる。スマホやメールなら「ダメ」の一言で終わる。気持ちがない。幼稚園、小学校からメール、スマホを見ていて子どもの視力低下もあると思う。これを学校関係でどう改善していくか。

それと、道徳問題にも繋がるが、私の会社でも 20 代 30 代の大人に「おはよう」っていう躾を今やっている。なぜ 30 代の大人が朝会っても「おはよう」が言えないのか。我々の時代には道徳という授業があったが、今、土日が休みで、道徳授業がなくなり、人と人とのふれあいの授業、これが減少しているように思う。

最後に、この大湊というところは、歴史がいろいろとある。市川造船で豊臣秀吉に日本丸を作ったとか、昔の大湊の開発の歴史と道徳を兼ねて授業をしてはどうか。日本は日本の歴史を子どもたちにちゃんと伝えてない。それも教育問題としてお願いしたい。

《回答》

市民病院の、学生が行きたい病院作りというのは大事なポイントだと思う。今、実は、新しい病院を作るということと、経営をしっかりとしたものにするという二本柱で進めている。本当な

ら一つひとつやっていければいいが、新しい施設を建設するに当たっては、国や県に補助金・交付金の支援をお願いするスケジュールもあって、同時進行で進めている。新しい病院を作るに当たっては、できるだけいい治療ができるような体制を整えるのはおっしゃるとおりで、2年前にゼロだった研修医が、昨年から2人来ていただけることとなった。こういったことも参考にさせていただきたい。

おもてなし観光の面は、ベンチはあるが、確かに入りやすい喫茶店はない。今、建設が進んでいるホテル・物販のところもあるので、こういったことができないか、企業にも提案をさせていただく。

メール社会は本当に寂しいことが多い。決して心がないわけではないが、気持ちが、世代によって伝わり方が随分違うように思う。昔なら手紙もあったし、心の伝え方が大事になってくると思う。視力の問題もそうだし、テレビ・携帯・ゲーム、この三つは、行政もしっかりと指導していかなければならないが、もう少し家庭での躾をしっかりとして欲しいと思う部分もある。先ほどの「あいさつ運動」にもあったが、次の世代を作っていくのは今の現役世代なので、みなさんの協力もいただきたい。できれば、ノーテレビデー・ノー携帯デー・ノーゲームデーというのを月1回でも構築をして、少しでもふれあう環境が作れればと思う。

大湊の歴史・地域の歴史・伊勢市の歴史というのはすごく大事だと思う。「歴史を知らない民族は滅びる」と言う言葉もあり、ここはしっかりとやっていきたい。今、伊勢市史がようやく出来上がった。非常に内容の深いものになっている。こういったものは、公民館や図書館のお飾りになるケースがよくあるので、これからどう活用するかが課題となっている。市史編纂委員の一人の皇學館大学の岡田先生との話の中で、こういった行政との懇談の場所や地区みらい会議等でも声を掛けていただければ、地域の歴史を一緒に勉強していくこともできると言っていただいている。

《質問・意見》

私たちは、「大水門会」といって大湊の中で13名で毎月1回、歴史についての勉強会をやっている。もし興味があれば参加していただきたい。大湊には大昔から古文書を保管しており、昭和55年3月に三重県の指定有形文化財として665点が指定され、平成20年に追加をされたが、その時の文書は私たちで整理した。合わせて1,420点くらい指定されている。この中に中世文書といって、中世文書は一般に数が少ないが、大湊は中世文書が多いので注目をされ、大湊港に入港をした船の入港料を取っていた帳面がある。それは日本にも滅多にないような資料である。織田信長、豊臣秀吉の朱印状なども残っているので、これの展示とか、資料館なり博物館なりを考えていただきたい。それから、市川造船所の書類とか道具類などを展示するところを何とか。市長の考えを聞かせて欲しい。

《回答》

3ヵ月くらい前に資料が置いてある二見の施設へ行って、それぞれの歴史資料や船の図面等も見させてもらった。すばらしいものがあると痛感した。これまでは外宮前に郷土資料館があったが、建物の耐震の問題で潰して史跡公園にしていくよう進めている。歴史の物をきちっと明示できる環境というのはすごく大事だと思うので、これは何らかの形で進めたいと考えている。

勉強会とか何か行事があるときは、「広報いせ」等でも案内できるので相談して欲しい。

《質問・意見》

不妊の助成金が伊勢市から出ると初めて知ったが、その割合はどれくらいか教えて欲しい、テレビ等でもよく見るが、不妊治療に時間とお金がすごく掛かるので諦めている若い人たちもいると思うので、せっかく助成金を出してもらえるのなら、続くようにお願いしたい。

《回答》

補助率は、今、分かる者がいないのでお待ちいただきたい。不妊治療ということで助成を行っているが、今回は、不育治療というものも始めた。不育治療は何かというと、お腹の中で着床した後で、赤ちゃんが育たない女性が随分と増えてきた。不妊治療とともに不育治療も進めて、少しでも産みたい方のサポートになればと考えている。

（後日回答）

- 対象となる治療：医師が必要と認めた不妊治療、不育治療。
- 対象者：法律上の夫婦
  治療を受けている方が治療期間及び申請日に伊勢市に住民票がある方
- 助成金の内容：1 の年度にかかった医療費の 1/2 で年間 10 万円を上限とします。
  ただし、三重県特定不妊治療費助成事業の交付を受けた方は、その助成額を除きます。申請は 1 の年度に 1 回とし、通算 5 回を限度とします。

《質問・意見》

金融機関に勤めており、ここ何年か、三重県内を仕事でほとんど回っているが、10 万都市で一番疲弊したのが伊勢市のような気がしている。市長をはじめ、市役所や商工会議所の方々もがんばってもらっているのはよく分かるが、全体的に伊勢のイメージが落ちてしまっているのが残念。今日、知り合いの医師が遠くから観光に来て、感じたことを 2 点に絞ると、今、観光で一番問題になっているのが、道路が大渋滞をしていること。4 日に用事があって外宮の方へ行ったら、外宮から内宮までのメインストリートが大渋滞。たまたま知り合いの呉服屋の奥さんと話をしていたら、トイレを借りに中年の女性が飛んできて、その奥さんは近くの病院を紹介したということがあった。市も観光課も努力をしていろんな対策を練っているが、本番の 10 月になったら想定以上の道路の混雑、それとその医師がホテルを取ろうとしたが全く取れず、私が当たってやっと 1 部屋空けてもらった。聞くところによると、大手の旅行会社がホテルをかなり押さえていて、個人が予約を入れてもほとんど取れない。遷宮で全国からたくさん来てもらい、努力してもらっているのは分かるが、想定以上の混雑が予想される。今日も八間道路がかなり大渋滞している状況だった。その受け入れ体制の改善をお願いしたい。

もう一点は、今日、知り合いの医師と話をして、一番全国で困っているのは、病院自体で仕事の魅力がだんだん薄れて、働くやりがいというか、給料も大事だが、過酷で夜勤もあり、すごく大変な思いをしており、若い人も定着しない。給料以上にそちらが大切な気がする。それと、全国の同級生の間で必ず出てくるのが、私の母親もそうであるが、病院で寝たきりになると 3 ヵ月に 1 回、病院を替われと言われ、たらいまわし状態になる。これは市だけでは解決できないが、医師会の会長も友達であり同級生なので、機会あるごとにお願いをしているが、一番困っているのは患者であり、家族。医療関係者も声を上げて欲しいと。現場をよく知っているのは看護師であり医師であるので、その人たちが実態はこうであると、今の制度は介護と医療が分離されてしまっている。老人というのは病気にもなるし介護も必要である。そういう施設が全国に足りない

のではないか。ということをその医師と話をし、その人も同じことを言っていた。いくら市長にがんばってもらっても、これは国の制度が小泉首相のときに劇的に変わったので、患者をどんどん地域に戻して、家庭で看ろという動きがあるが、これははっきり言って無理。ＮＨＫのテレビで見たが、アメリカやヨーロッパではこれができている。それはどうしてかと言うと、地域の医者やケアマネージャーが毎週会合を開いて一人ひとりの患者の状態を把握している。そういう制度ができていないのに、日本はどんどん現場に戻して家族の負担がすごく増えている。伊勢市だけでは無理だが、ぜひ改善をよろしくお願いしたい。

《回答》

観光の方の大渋滞の抜本的な解決は難しいと思っている。複合技で、公共交通機関の利用促進はもちろん、宇治地区の国道 23 号を 3 車線化したり、信号を見直したり、いかに車が快適に通りやすくするかという改善を国の方で進めている。平成 33 年に三重国体があって、その時までに県に要望している御側橋という県の陸上競技場から抜けられる逃げ道を整備していきたいと思っている。何とか少しでもこの受け皿を解消していかないと、ご心配のとおり「もう二度と行くな」という方に繋がって行くのも目の前に来ているので、この点はいろんな形でやっていきたいと思っている。

ホテルの宿泊は、2、3 年前から予約が随分入ってきたというしんどい状況である。今回、駅前のホテルと伊勢道路の手前に和風旅館ができてくるので、何とかもう少し平日の方に促せないかと、混雑期を違う時期に移動するための施策を考えていきたい。

施設不足はもっともで、老人介護施設は全国でも三重県は最下位レベルである。伊勢市でも数字は明確でないが、特別養護老人ホームを待っている人が 3 年前で 1,500 人くらいあって、老人保健施設は 3 ヵ月で出なければならない、次どうしたらいいかと困っている話がたくさんある。特養を作るには県の許可が必要で、県と国と協議をして、計画の前倒しということで、2 年前にプラス 100 床して、これからもう少し軽度の人が入れる施設を 180 床増やしていきたいと考えている。ただし、施設を増やせば増やすほど介護保険料にも響いてくる実態もある。どっちがいいかというバランスも見ながら、施設を増やしていきたいと思う。ただ、健康で長生きできるということを一番先にもっていかなければならないと考えているし、日々の運動習慣、健康づくりにも積極的に参加していただきたい。

若者の定着は、千葉の亀田病院を見に行ってきて病院をどうしていくかの勉強もさせてもらってきたが、いい病院は若い医師がすごく多い。その亀田病院や聖路加病院では、病院に入るのに試験があるそうである。希望者が多くて足切りをし、ハードルが高い状況。そこで得てきたことを職員に勉強させているので、少しでも伊勢病院で働きたいという環境を作っていきたいと思うし、皆さんに協力をお願いしたいのは、一時期よりも大分減ってきたが、コンビニ受診というような、軽度・中度、いわゆる風邪を引いただけで救急車を使うような、一時開業医の協力で減ったものの、また最近増えてきている実態があるので、そういった医療の関係も大事にしてもらいたいという気持ちがある。今、軽度・中度のちょっと調子が悪いなあ、と思ったときには、「広報いせ」の裏面に毎月載せているが、健康相談ダイヤルというのがある。24 時間 365 日、電話で救急車を呼んだ方がいいのか、開業医に看てもらえるかの相談ができる。それは病気や怪我のことだけでなく、健康に関することなら体のことでも心のことでも、介護のことについても、専門員が返事をしてくれるので、それも広げていただけるとありがたい。

《質問・意見》

4 月 24 日の新聞に載っていた 3 市 5 町の「定住自立圏構想」について中身を教えて欲しい。

もう一点は、5 月 17 日の新聞の沼木のみらい会議のバスについて、どのように組み立ててきたかを教えて欲しい。

《回答》

「定住自立圏構想」が何かというと、伊勢と鳥羽、志摩、玉城、度会、明和、大紀、南伊勢の町でそれぞれがいろんな事業をしている。例えば、一番分かりやすくいうと、図書館。伊勢市民でも玉城の図書館に行けるし、鳥羽の人でも伊勢の図書館を使える。そういったそれぞれが持っている財産、施設、サービスをお互いに使い合いできるものを目指すもの。全国で地方の人口減少が進んでいる中で、しかも税収が少なくなってきて、そういったサービスをアップしていくのが非常に難しい。そういう中で、お互いが持っているものをみんなが使えるように、シェアできるようにしていこうというのが「定住自立圏構想」である。

もう一点の「沼木の自主バス運行」は、沼木地区の横輪、矢持の路線バスが廃止になることを受けて、地区みらい会議の方で地域が何に困っているかをヒアリングした結果、普段の買い物、病院への足、近くに娘や息子のいる人は送ってもらえるが、なかなか平日の昼間に病院へ送ってとか、買い物に連れてってとは言えない。

そういう状況の中で、地域の方々がバスの運行を自主的にやりたいという話をもらった。当然、お金さえ出せば難しい話ではないが、一番大事なところは、地域の人たちがみんなで考えて、みんなで議論し合って、一つの目的に進んでいく。それを地域の活性にしていくということで、今回行政の方で地域の方に委託をして、バスの運行をしていただくこととした。今、24 小学校区のうち 13 で地区みらい会議が発足し、それぞれの地域の課題や先ほどあった大湊町の歴史、そういった財産をもう 1 回磨き直していくことが地域の活性化になろうかと思っている。伊勢の元気が一番疲弊しているのではないか、というのももっともな話であるが、平成 22 年の国勢調査の結果で、三重県内で人口減少率が一番大きかったのが伊勢市である。逆に一番増えたのが玉城町だった。行政が何でもかんでもやる時代ではなくて、地域の方々が活動していって、まちづくりをしていくことがまちが一番元気になっていくのではないかと思う。例えば、勢田川の七夕清掃というのがある。あれなんかを見ても行政がお金を出して予算を出してやるのは簡単である。でも、それよりも自分たちが行動することでそこには愛情というものが生まれる。その愛情を持って活動していくこと。それを全地域でそれぞれに活動してもらえるよう、我々も全力でサポートしていきたい。

《質問・意見》

私は民生委員を 30 年ほどやっており、伊勢市の正副会長を 18 年やらせていただいたが、その結果、感じていることが三つくらいあるが、市役所のどこへ相談をしに行けばいいか。

例えば民生委員手当の問題。市役所で賃下げがあった時代がある。昭和 60 年ごろに。その時に民生委員の手当てを減らしたが、民生委員のは手当ではない。市役所の役人の給料を減らしたから民生委員手当も減らせと、こういうことになって、とにかく県と同額を市が民生委員手当として支給すると。こういうことで昭和 60 年ごろに下げて、それからずっと上げなかった。市役所の役人の給料は上げたけど。そういった込み入ったことが 2、3 ある。

例えば我々昭和 2、3 年生まれは、市から敬老会をやってもらっていない。これは小俣と合併

した時の関係です。そういったことをどういった考えか、昔に戻れとは言わないが、話を聞いてもらいたい。市長は忙しいと思うので、どこへ行けばいいのか。

《回答》

広報広聴課が窓口になる。

民生委員は本当に大変な仕事であり、困っている人に対して側面からいろいろな活動をしてもらっている。なかには、家庭内暴力とかの問題であれば、夜中の2時、3時までその仲裁に入ったり、本当に大変な努力をしていただいている。2年前の改選の時期に、随分と欠員が出た。その原因を調べるために、民生委員制度のあり方検討会というのを実施した。その中で、普段民生委員が思っていることで行政に伝わっていないことがたくさんあり、その中に民生委員の手当のこともあった。実際に一生懸命に住民のため、困っている人のためにと活躍していただいている人ほど、赤字は当然のようになっている。県の方も市の方も汲々の状況で出した。そういったことを見直すために、あり方検討会をやって、今回、我々ができるものとすると、例えば市の行事への動員のお願いをしたり、民生委員に無理なお願いをしていたこともあったので、できるだけ民生委員本来の仕事に向かってもらえるよう、仕事を削減することと、手当も僅かではあるが、増額させていただくこととなった。国・県で対応しなければならないこともあるので、県の市長会等で要望なり、話をさせていただきたい。